

学校感染症一覧表

	病名	おもな症状	感染経路	潜伏期	感染期間	出席停止期間	備考
第 二 種	インフルエンザ	高熱(39～40℃) 関節や筋肉の痛み 全身倦怠感 咳・鼻水・のどの痛み	気道 接触 飛沫	1～3日	発病後 3～4日	熱が下がって2日(幼児は3日)を経過するまで	肺炎や脳炎などの合併症に注意。 発熱や意識の様子に気をつける。
	百日咳	コンコンという短く 激しい咳が続く	飛沫 気道	1～2週	1～4週	特有の咳が出なくなるまで	3歳以下の乳幼児は肺炎を合併することがある
	麻疹(はしか)	発熱・鼻汁 目やに・発疹・くしゃみ	飛沫 気道 接触	9～12日	発疹が出る前5日～ 出た後3・4日	熱が下がって3日を経過するまで	
	結核	発熱・咳・喀痰・喀血 疲労・体重減少など	気道	4～6週			結核性髄膜炎に注意。 圧倒的に肺結核が多い。
	流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	発熱 耳の前下部の腫れと 痛み(押すと痛む)	飛沫	2～3週	耳下腺の腫れる前 7日～腫れた後 9日間	※下記注2参照	思春期以後の感染では、 睾丸炎、卵巣炎の合併に 注意。
	風疹(三日はしか)	38℃前後の発熱 発疹 リンパ節の腫れ	飛沫 気道	2～3週	発疹が出る前7日～ 出た後7日間	発疹が消えるまで	妊娠初期の感染は、 リンパ節の腫れ 奇形児出産率が高い。
	水痘(水ぼうそう)	発疹→水泡→ かさぶた 軽い発疹	飛沫 気道 接触	2～3週	発疹が出る前1日～ すべての発疹が かさぶたになるまで	すべての発疹がかさぶたになるまで	
	咽頭結膜熱(プール熱)	38℃～40℃の発熱 のどの痛み・目やに 結膜の充血	気道 接触 (結膜)	5～7週	発病してから 2～4週間	主な症状がなくな って2日を経過 するまで	医師の許可があるまで プールには入らない。
第 三 種	流行性結膜炎(はやり目)	目の異物感 充血 まぶたの腫れ 目やに 瞳孔に点状の濁り	接触	4～10日		出席停止日数は症状に応じて医師が判断します。 (★印に関しては医師または保育園にご相談下さい。)	医師の許可があるまで プールには入らない。
	急性出血性結膜炎(アポロ病)	目の激しい痛み 結膜が赤くなる 異物感・涙が出る	接触	1～2日	発病してから 5～7日		
	腸管出血性大腸菌感染症(O-157)	激しい腹痛 水様性の下痢、血便	経口	4～8日			溶血性尿毒症症候群 などの合併症に注意。
	ヘルパンギーナ	高熱(38～39℃) 咽頭発赤・のどの奥に 白い小さな水泡疹	飛沫 接触	2～4日	主な症状が 治まるまで		
	溶連菌感染症	発熱(39℃前後) 発疹・扁桃発赤・腫腸 咽頭痛・いちご舌など	飛沫	2～5日	主な症状が 消失するまで		急性腎炎・中耳炎 リウマチ熱に注意。
	異型肺炎(マイコプラズマ)	発熱・乾性の激しい咳 が続く 咽頭炎 胸部レントゲン陰影	飛沫	2～3週			高熱後、長い咳に注意。
	★ 伝染性紅班(リンゴ病)	両頬に少し盛り上がった じんましんのような 発疹。発熱	飛沫	1～2週	(症状出現後は 感染力が弱い)		妊婦は感染しないよう 流行期には注意が必要。
	★ 手足口病	軽い発熱(2～3日) 小さな水泡が口の中や 手足にできる	飛沫 経口 接触	3～5日	のどから1～2週間 便から3～4週間		
	★ 伝染性膿痂疹(とびひ)	からだに水泡ができる →破れて膿が出る。 かゆみ	接触 (水泡の 分泌物)	2～5日	水泡から膿の出る間		
	流行性嘔吐下痢症	突発の嘔吐・下痢を 主症状とする。	経口 飛沫	1～3日	主な症状が回復する まで		主な原因はロタウイルス 小型球形ウイルス(SRSV) アデノウイルス(40、41 型)
	感染性胃腸炎(ノロウイルス)	吐き気・嘔吐・下痢 腹痛・発熱	経口 飛沫	1～2日	通常3日以内で回復		効果のある薬は無い 脱水症状に気をつける 症状改善後も注意が必要

注1：発症から、特有の咳が消失するまで又は5日間の適正な抗菌性物質製剤による治療が終了するまで

注2：発症から、耳下腺、顎下腺又は舌下腺の腫脹が発現した後5日間を経過し、かつ、全身状態が 良好になるまで

特注：クラスの3分の1以上が伝染性の疾病で欠席した場合、学長判断で学級閉鎖になる場合があります。